

偶成

藤田東湖

海も絶る連櫓十萬の兵

雄心落落胡城を圧す

三更夢覚む幽窓の下

唯秋声の雨声似る有り

【作者】藤田 東湖(一八〇六〜一八五五年)(文化三年〜安政二年)・水戸藩の儒臣で幕末の代表的尊王攘夷論者、名は彪(たけき)・号は東湖。生

家の東に千波湖があつことにちなむという。徳川斉昭を助けて藩政改革に尽力、弘道館の創設・兵制改革・大砲鑄造を行う。勤儉力行に努めた。安政二年十月二日(一八五五年十一月十一日)に発生した安政の大地震の際、母親を助けようとして落下してきた梁で圧死した。

【語釈】\*連櫓(れんしやう)：連なるほばしら、転じて大軍の船。 \*落落：安心して。 \*雄心：おおしい心。

\*三更：今の午前零時前後 \*幽窓(ゆうそう)：寝静まつた静かなところの窓

【通釈】大軍を引き連れ、帆柱を連ねて海を渡り、敵の牙城に迫り、今一戦という時に夢覚めれば身は窓の下に横たわっていた。

夢の中で聞いた波の音は、秋風が雨音とまごうばかりに吹き渡っていたからだろうか。

【備考】◎勤王家の作者が夢で夷国(いこく)と戦つてのを見て作詞したもの。

\*夷国(いこく)……えびすの国。野蛮な国